

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いを笑うないずれ私も通る道」この言葉を頭に入れ、スタッフは近所の方が気軽に遊びに来てもらえるよう声かけなどしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度のカンファレンスにより、反省すべきところ、良くなったところ、又利用者の方の体調に応じたケアができるよう話し合いをして、一丸となって取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	民生委員の方に協力してもらっている。家族の方との会話の時間もできるだけ長くとれるよう心がけている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内の行事には必ず参加している。立ち寄ってもらったり、ホームで一緒に昼食をしてもらう用意もある。今では同ビルの方に留守番をたのまれたりもする。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも参加し、行事等にもスタッフだけでも参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ひとり暮らしの人や昼間ひとりの人などホームに来て一緒に過ごしていただく用意もある。民生委員の方にもこのことを声かけしていただいている。	○	今後も取り組んでいきたい。なかなか町内会長さん達の協力が得られないが、他の役員の方々とうまくいっているので少しずつ協力が得られるよう取り組む
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の調査報告書を全員が見ることのできる所に置き、見てもらえるようにしている。運営者はスタッフの意見を聞き取り入れるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では現在の利用者の方の状態等を報告し、相談して意見を聞き向上に努めているが、利用者の方の体調が悪く大変な人が多い為意見どおりに行えず	○	現在は、医師、訪問看護の看護師の方たちとの連携で一日でも長くこのホームで過ごしていただくことに力を入れている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者の方には、運営推進会議には必ず参加してもらっている。市の方へも平均すれば週一回位は行き、ちいさなことでも相談するようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見人制度について相談を受けることも有るので管理者のわかる限り支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	月に一度の管理者、スタッフのカンファレンスの時に話し合う機会を持つようにしている。	○	スタッフ同士でも言葉など強い口調を耳にすれば注意しあうよう心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は運営者がおこなうが、重要事項説明書にもとずき説明をおこない、疑問点など十分説明をしている。家族の方の不安がないようつとめている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者(管理者)が利用者の話しやすい機会をつくったり、面会の時は家族の方と利用者さんだけの時間をもってもらい、楽に気持ちを言えるよう心がけている。	○  今現在は身の上身体的な理由で不満を聞けることが少なく顔色等で利用者さんの気持ちを判断するようにはしているがなかなかむずかしい。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の方の暮らしぶりや健康状態は面会、電話、月に一度は手紙にて行っている。職員の異動に関しては面会に来て下さった時に報告するようにしている。	○  利用者の方の状態は面会、緊急な場合又は、面会が少ない場合は電話にて行っている。月に一度は手紙を書くようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けてない。ただ管理者も職員も家族の方達の意見等に耳を傾ける気持は常に持っている。又言いにくい事は市の4F介護保険室に行かれて相談することができることも話している。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のカンファレンスにより皆が意見を出し合うようにし、反映できていると思う。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	運営者(管理者)は24時間、いつでも対応出来るようになっている。スタッフも希望休み以外は調整、確保できる。	○  運営者(管理者)が緊急な場合は必ず対応できる。職員も確保できるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は小規模なホームの為、職員が働きやすくするために(異動はない)、職員の話をよく聞くようにし、利用者の方又、家族の方とのコミュニケーションがうまく取ることができるよう努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に行ってはいないが、毎日が育成である。研修等は本人の希望で申し出があればシフトの組み換えも必ずでき、研修を受けられる。		
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか交流は出来ない。研修、会議等にはできる限り参加するよう努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特別にこれということは運営者からはやってないが、スタッフの相談、悩み等は聞き入れうまくいっていると思っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	希望休みは前の月末に聞き、必ず取り入れ働きやすく一人一人の身体能力に応じて働いてもらっていると、運営者は思っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方や本人の話をよく聞き希望にそえるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームの方針をよく説明し、家族の方の話に耳をかたむけ、安心して利用していただけるよう常に心がけている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、又病院等と話し合いをしながら考えるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族との話し合いの時間を出来る限り取り、本人の性格今までの生活を知るよう心がけ一日も早く馴染んでもらえるよう工夫している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る限り肩に手を置いたり手を握ったりの身体タッチをしながら会話をするようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	なかなか、家族の方も時間を取るのが難しい為、面会の回数が少ないが、家族の方の気持ちに耳を傾け、意見交流を行うように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	現状家族の方がみえても、コミュニケーションを取る事が困難な方が多いが、今までと変わらず話しかけてもらうなど良い関係を築いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会を通し、今までと出来る限り変化がないよう配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の身体的問題もあり、限られた利用者の方たちだけになるが、手の不自由な方のエプロンをたたんであげようとする姿などみられる。	○	スタッフとの会話が多くの為、今後の利用状態にあわせ利用者同士の関わりをふやせたらと考えている。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、利用者、家族の方が必要とくださる限り相談を聞くなど配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り利用者の希望にあわせ、生活を送っていただいている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、身内の方などから情報収集を行い、把握できるようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の状態をしっかり把握し、その利用者にあわせ援助していけるよう心がけている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一度会議を開き職員の意見交換を行い、それを元に家族の方と相談を行うなどしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の方の変化に気をつけ、毎月一度のスタッフの会議、家族の意見等に耳をかたむけながら、計画をたてるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に利用者の変化にあわせ、介護の行い方を考え、変えた場合などケース記録に記入はもちろん、個人の申し送り表に記入し今後に活かせる様にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の方が、一日家につれて帰りたいなど、その時の利用者の体調も把握しこたえられる範囲で支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特に民生委員の方達の協力を得ながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は利用者の身体的な問題もあり、病院との話し合いがほとんどである。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に一度の運営推進会議の時には必ず参加していただき、意見交換、相談をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間往診される契約医がいるが(訪問看護有り)、家族の方々や本人の希望があればこれに限らない		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所されたら必ず認知症の受診、他の身体検査をやってもらい、利用者、家族の方がいつでも相談できるようになっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	連絡すればいつでも、夜中でも来てもらえる。又介護の相談にも気軽にのってもらえる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のケースワーカーの方等、ホームの入所状況他、相談にもものってもらえる病院がある。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ほとんどの利用者の方がホームで最後をむかえられるので、医師や家族の方と話し合いながら行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	最後まで良き日々を送ってもらっている。そのために24時間の往診、病院用ベッド、エアーマット等の用意もある。職員も病院勤務をしていた人が何人かいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所の関係者と会い情報交換はもちろん行うが、これまでほとんどないため今後考えていく。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所一ヶ月くらいで、利用者の方の性格を把握するよう努力し、家族の方の話をよく聞き、対応のしかたにも気をつけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	身体的なことで自己決定が難しい方が多いが、希望にそえるよう心がけ、無理を言われるときは納得されるまでくりかえし話しをするようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	第一に本人の好きなようにを心がけているが、自分自身で働ける人がいなく、車椅子介助のため現在はその人の体調にあわせて過ごしてもらっている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の方の好みに合わせ意思表示の出来ない方にも聞くように心がけ時々は口紅等をつけてみたりもする。	○	理美容は以前はホームの近くのお店にお願いしたりもし、希望の方には行ってもらっていたが、現在は全員職員が行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状利用者の方と料理を行うのは難しいが、軽作業などはやっていただけるよう心がけ、食事の時間を楽しんでいただく為、四季の料理などを取り入れ利用者の好みなど把握しおいしくたべていただけるようにしている。	○	今後料理好きの利用者が入居してみえたら、一緒に料理を作るなどする機会を増やしていく
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の話しに耳をかたむけ、コーヒーを飲みたい方は飲んで頂いたり、タバコを吸われる方は決っている場所で吸って頂いたりなど、利用者にあわせて支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレに間に合わない方など、ポータブルを使用していたり、リハビリパンツの使用している。できる限り時間をみての声かけを行うようにしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	コミュニケーションを取る事が難しい全介助の利用者の方などは、職員の都合になってしまうが、コミュニケーションの取れる利用者の方には、毎日声かけをし利用者の体調や希望にあわせて入浴していただいている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	コミュニケーションを取れる利用者の方には、声かけを行い利用者の方の状態に合わせて休息していただく。又、コミュニケーションの難しい利用者の方は、定期的に休息していただくようにし、その日の体調にあわせ休憩時間も考え支援している。居室の温度調整や湿度調整なども行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除をお願いしたり袋や新聞を折っていただくなど、自分の仕事だと思ってやってくださったり、利用者の方どうし折り方を教えてあげる姿などがみられる。職員がありがとうと声をかけるとうれしそうな表情がみられるなど、日常生活のいろいろな場面で利用者の状態にあわせて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方がほしい物など一緒に買いに行く場を作りたいが、利用者の身体的問題もあり現状困難である。	○	買い物やイベントなどの外出などはいつも考えているため、今後の利用者の方の状態にあわせ取り組んでいく。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調にあわせ公園に散歩に出掛けたりコミュニケーションの困難な方に対しても車椅子を利用し、少しでも気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方々に話しをもちかけてみるが、利用者の身体的問題があり現状は困難である。	○	今後の利用者の方の状態にあわせ考えていく用意もある。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望にあわせ行っている。ホームに利用者の方の友達や家族から電話がある場合出ていただくなど。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	あまり遅い時間帯は他の利用者の方の事もある為、朝8時から夜8時ぐらいの時間帯ならいつ訪問して下さっても良いことは口頭にて伝えさせてもらっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいるが利用者が自分自身を傷つけてしまう場合など、家族と相談をし家族了承の上で一時的に行うことはあるが、一時的で終わるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。夜の施錠は行っているが、日中の施錠は行わない事と職員すべてが理解している。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼も夜も常に巡回をおこない、利用者の状態を把握できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に利用者の行動に目配り危険な状態が起きないように配慮し、又危険と感じたものに対しては利用者本人の了承を得て預からしていただき必要な時に職員と一緒に使用するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に職員が付き添う。物品などむやみに置かないようにし、又利用者に目を配り注意している。誤薬しないように職員による手渡し、見守りを行っている。喫煙などは決められた場所のみで行うよう取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月一度全体会議を開き、緊急時に手当に対し話しをしたり、日頃から職員同士教えあったりなどしている。		
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年度が変わる度に会長さん達へあいさつに行き、町内の行事にも参加し協力が得られるよう心がけているが、会長さんの協力がなかなか得られないためホームの周りの人たちに働きかけている。	○	今後もっと地域の方々と交流を深め、ホームの存在をわかっていただくよう考慮していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	危険を感じたことなどは速やかに家族に相談を持ちかけ家族の方の意見と利用者の状態と照らし合わせ配慮している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	咳ひとつ気を配り主治医の先生と連絡を取り指示をいただくようにしている。又一日三回のバイタルチェックを行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の方からの説明をしっかりと把握し、利用者の状態を話すなど情報交換をおこなうようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	寝たきりの方はおむつ交換の時など、おなかをさする手や体を左右に動かすなど心がけている。又水分量をふやしてみたりしているが、あまりにひどい時に限り薬を処方してもらうなどしている。	○	現状困難だが、利用者の状態にあわせ一緒にストレッチや軽い運動などしていききたいとは考えている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立して口腔ケアをできる方は朝、夕の口腔ケアを行い、困難な方に対しては毎回口腔内のチェックを行い、飲み込まれていないものがないかなど配慮している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、きざみ食、ミキサー食、利用者にあわせ行い水分をそのまま取ることでできない利用者の方にはトロミを使用し、一人ひとりにあった食事、水分を把握しとっていただくようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ホームを清潔に保ち消毒剤やノロアウトを使用。うがい、手洗いをし、職員は勿論、面会者の方に対しても風邪をひいてないかなど聞いてからの面会にさせていただくなどを行っている。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した食器はハイターやノロアウトを使用し二度洗いを行っている。食材に関してはしっかりと熱を加えるなど配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関につくまでの通路は共同通路の為何もしていないが、共同通路に入る手前に手作りの看板をつけさせていただき、その下に花をうえるなどし通路を歩いてくるとホームがわかるよう小さな看板の設置などを行いできる限りの事はしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るなど、その月のイベントにあわせ共有空間を絵や文字で飾ったりなどし、利用者の方に楽しんでもらっている。又、トイレや浴室の入り口には利用者の方がわかるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごしていただいたり、畳の部屋もある為、利用者の方にあわせ共有していただくようにしているが、現状車椅子の方が多く、リビングのテーブルではほぼ過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居室は家族の方達の見解も取り入れ、時々 は模様替えなども行うようにしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各部屋に温度計を置きその人に合う温度調 整を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	いろいろ工夫はしているが車椅子介助での 移動がほとんどの為、現在は職員が介助 時の安全を気をつけるよう心がけている。	○	居室の掃除を職員と行ってもらっている 利用者の方もいる。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように 工夫している	毎日、日めくりのカレンダーをめくって もらったり、その人に応じて役割をも ってもらったり等々		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽 んだり、活動できるように活かしている	庭には畑があり、春になれば色々植 えたり、育ったものは、毎日の食 事に利用するようにしている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

花やセミの声、松ぼっくり、目で見て耳で聞き四季の移り変わりを感じることができる梅林公園が前にあり、毎日の散歩を楽しむことができる。居室の窓を開ければ、小さな畑があり、野菜を育て収穫した物はその日の食事に、こんなグループホームひなたぼっこ！